

# 令和6年度「SDGsの実現に向けた教育推進事業」取組内容

蓮田市立黒浜南小学校

## 1 育成する能力

「課題発見力、主体性、協働性、論理力、創造性・社会関係形成力」

## 2 研究概要

### (1) 取り組むSDGsの目標



### (2) 研究主題

「持続可能な社会の創り手として必要な資質・能力の育成」  
～未来創造型PBL★1stステージ「知る・考える・行動する」～

### (3) 研究仮説

持続可能な社会の創り手として必要な資質・能力を明確化し、地域や企業等と連携して「SDGsの実現に向けて社会とつながる教科横断的な探究・プロジェクト型学習（PBL）」を小・中学校9年間を見通して工夫して実施すれば、「課題を自分事として捉え、その解決に向けて自ら行動を起こす力」を育成することができるだろう。

## 3 企業・団体との連携

### (1) 連携・協働した企業・団体

①ヤマト運輸株式会社 ②管清工業株式会社 ③積水ハウス株式会社 ④IKEA 新三郷  
⑤東京ガス株式会社

### (2) 連携・協働した主な内容

①ヤマト運輸 … 3年生対象に、環境出前講座を行っていただいた。  
②管清工業株式会社 … 4年生対象に、理科「水のくらし」の講師としてお話いただいた。  
③積水ハウス株式会社 … 3年生対象に、環境学習応援隊の出前授業【環境学習 省エネ実験「いえエコロジー」】を行っていただいた。  
④IKEA … 5年生対象に、IKEAの環境等への取組についてお話いただいた。  
⑤東京ガス … 6年生対象に、家庭科の授業において環境教育に関する出前授業を行っていただいた。

## 4 研究内容

### (1) 研究の手立て

#### 手立て1

持続可能な社会の創り手として必要な資質・能力を明確化した教科横断的な学習の展開

- ア 本研究で目指す資質・能力を育成する生活科・総合的な学習の時間を要とした教科横断的な学習及び教育課程の編成
- イ 小・中学校9年間を見通した本研究で目指す資質・能力を育成する「指導と評価の一体的な充実」

#### 手立て2

ワクワク探究・プロジェクト型学習（PBL）の展開

- ア 生活科、総合的な学習の時間を中心とした学習過程の工夫「知る・考える・行動する」
- イ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

#### 手立て3

校内での人とのつながり、地域や企業等と連携した社会とつながりがある学習の展開

- ア 学年内、学年間での児童同士のつながり
- イ 学校内外の教育資源の活用
- ウ 地域と連携・協働した活動

### (2) 取組

①授業研究部の取組 ～「目指す資質・能力と関連させた教科等横断的な学習」の指導計画と評価～

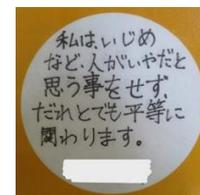
- (1) 本校で目指す資質・能力と各教科の関わりを明確化
- (2) 各教科の単元内容と資質・能力との関わりを明確にした一覧表の作成
- (3) ルーブリック評価表の作成

②環境部の取組

- (1) SDGs を自分事として捉えるための環境整備
- (2) 日常化のための環境整備
- (3) 家庭との連携

③各学年の取組(生活科・総合的な学習の時間)

- 特別支援学級「学級園大作戦」
- 1年生「見つけた あきで あそぼう」
- 2年生「まちたんけん」
- 3年生「黒浜沼の自然、そして地球を守ろう」
- 4年生「共生社会に向けて～誰もが幸せになるために～」
- 5年生「多文化共生社会をつくろう」
- 6年生「20年後の蓮田をプロデュースしよう」



SDGs宣言の掲示



#### 6年生の授業の様子



「20年後の蓮田」についての提案をし、専門家や地域の方にアドバイスをいただく。



グループごとにアドバイスをもとにプレゼンテーションを行い、市長に提案書を提出する。

## 5 成果と課題

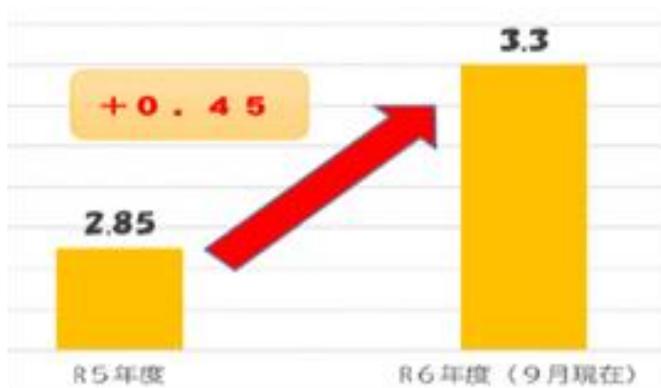
### ○ 児童生徒の変容

☆6つの資質・能力に係るアンケート調査より

目指す資質・能力	差 (R5.9→R6.9)
課題発見力 (課題を見つけ出す)	+0.22(2.99→3.21)
論理力 (筋道を立てる)	+0.11(3.02→3.13)
創造性 (新しく創り出す)	+0.24(3.03→3.27)
主体性 (自分から取り組む)	+0.26(3.11→3.37)
協働性 (仲間と協力する)	+0.12(3.41→3.53)
社会的関係形成力 (地域の方と協力する)	+0.54(2.88→3.42)

取組の成果として、全ての資質・能力の向上が見られた。資質・能力の育成を意識した授業展開（ルーブリック評価表を用いた教員と児童の目標の共有化、振り返り、「知る、考える、行動する」の学習過程の工夫等）の成果が表れていると考えられる。特に「社会的関係形成力」についての意識の伸びは大きかった。生活科、総合的な学習の時間を中心に外部と連携した学習を繰り返し行ったことによる成果が表れている。

☆本研究で目指す児童の姿「様々な課題を自分事として捉え、その解決に向け自ら行動を起こす力」についてのアンケート



昨年度と比較すると大きく向上した。児童の学習の様子から、各分野の専門的な知識をもつ方から直接話を聞くことで自分事として実感できた。また、自分たちで考えた解決案について具体的なアドバイスをもらい、さらに提案書の作成、できることを実行する経験を通して、様々な課題の解決に向けて自ら行動を起こす力が身に付いてきたと考えられる。

### ○ 学校全体の変容

- ・小・中学校9年間を見通した本研究で目指した資質・能力を明確にしたことにより、学年の学習ごとに身に付けさせたい力を意識して学習を展開することができるようになった。
- ・ルーブリック評価表で評価基準を明確にしたことで教員も児童も身に付けたい力、そして具体的目標を意識することができるようになった。
- ・生活科・総合的な学習の時間だけでなく、他の教科でも教科の見方・考え方に関連させて目指す資質・能力の育成を意識し、授業を展開することができるようになった。
- ・「SDGs宣言」や「家庭で探そうSDGs」等を実施したことで家庭と連携してSDGsへの理解を深め、実践力を高めることができた。
- ・「SDGsの視点でのキャリア教育」の取組は、児童が「自分のよさを生かしてよりよい社会を創る生き方」に繋げることができた。

### ○連携した企業・団体の声

- ・SDGsの取組は企業でも進めており、子供たちに授業をしたり、子供たちの活動の様子を見たりすることで、企業の取組へのヒントになった。

### ○令和7年度に向けての課題

- ・他教科の実践がまだ少ないので実践事例の蓄積が必要である。
- ・生活科、総合的な学習の時間以外の教科において、ルーブリック評価を含めた評価方法について今後も研究を進めていく必要がある。
- ・生活科、総合的な学習の時間と他教科の各単元との関連を意識した単元配列表等の再構築が必要である。
- ・今後も小中連携の視点で目指す児童生徒像の実現を目指し、見直しながら9年間のつながりのある、より一体的な指導・支援を行える体制を継続、改善していく必要がある。
- ・今後も、生活科、総合的な学習の時間の単元計画の成果を検証し、改善を図っていく。